

## 造形教育研究部会

### I. 部会研究テーマ

#### 1. 統一テーマ（小・中）

「豊かな創造性を育てる造形教育のあり方」

#### 2. 小テーマ（中学校造形教育部会テーマ）

「発想・構想の能力の向上を目指す授業」

### II. 研究テーマ設定の理由

今年度、全国&関東甲信越静地区造形教育研究山梨大会が行われるにあたり、甲府の甲府南中学校が授業実践を発表することになった。中学校部会では、一人一実践を小テーマ「発想・構想の能力の向上を目指す授業」で研究発表することで、南中の提案の共同研究とした。

今まで甲教協の造形教育研究会中学校部会では、美術教育の在り方について研究を深めてきた。それは、美術教育が生徒達にとって、将来の生活に役に立つ必要な教科として思われるにはどのような授業を行えばよいのか、年々減少する美術科の授業数にや正規教員数に歯止めをかけるにはなどである。生徒は、絵を描くことの苦手意識から、美術の授業嫌いになっている。これは、まさに今まで我々美術教師が行ってきた、写実的な技能中心の美術指導の弊害であろう。「うまくできないから美術は必要ない」でよいのだろうか？美術教育は画家やデザイナーなどの美術の専門家を育成する教育ではなく、人生そのものを豊かにする発想や人生観などを育てるものである。制作の喜びから学ぶ、試行錯誤や達成感なども、人間形成の発達段階における生徒には必要な教育である。ここに、しっかりと目を向けなかったことが、現在における美術教育の社会的な価値に相当する一なのであろう。今回の全国・関ブロ山梨大会のテーマが造形教育の100年～俯瞰して見えてくるもの～である。まさに、100年後の日本の美術教育の存続の危機に面している今こそ、真剣に議論し改善していかなければならない時期なのである。100年後に美術科教育は存続しているのか？また、どのような形でどのようなことを教育しているべきなのかを、発想や構想する能力の向上に焦点を当て、研究を行った。

具達的な研究であるが、まず、発想する力とはそのような力なのだろうか。発想の概念や定義づけから研究をスタートした。我々が物事を発想する場合、間にもないところから生み出すことはほとんどない。今まで生活してきた経験の中の情報や感情をもとに、制作テーマに沿ってイメージしていくことが多い。生徒達は、様々な経験をしているが、それを美術表現につなげることができないことが大きな課題である。そこで、発想力は身の回りにあるものや情報やその時々感情を、美術という視点で分析することの積み重ねで向上させることができると仮定した。毎週1時間の美術の授業だけでは育てることは難しいので、授業以外の日常生活を美術の目で鑑賞する取り組みを行った。これを各校が、「すてきなものを見つけた」「発想力向上プリント」などの名称で取り組むこととした。内容は、毎週課題（テーマ）を出し、それを

一週間の生活の中で身の回りを観察しながら見つけていくものである。たとえば、課題「身の回りで河に見えるものを見つけよう」では、缶ジュースのプルトップの形が口を開けた人に見えるなど、テーマに沿って周囲を美術の視点で鑑賞し、なぜそれを選んだのかを考えるのである。これによって、さまざま美術表現につながる情報や経験を積み重ねることができる。また、数回続けていると、自分の嗜好パターンを実感することができ、自分をメタ認知することができる。これにより、自分自身について考えるきっかけとなり、個性の育成にもつながってくる。

### Ⅲ. 研究の経過と内容

部会開催日	会場	活動内容	一実践の発表計画	時間
6月17日(火)	美術館	今年度の全国・関ブロ造形教育研究大会山梨大会の実施に向けて、授業改善の手立てを講ずるため原案を提示した。 南中・南西中実践発表		15:00～
8月7日(木)	美術館	学習会・指導案検討 喜怒哀楽をテーマに 授業案の原案を検討	富竹中実践発表	9:00～
	アイム	夏季全体集会	—————	14:00～
8月20日(水)	美術館	学習会	北西中・北東中の授業実践報告を行った	9:00～
9月4日(木)	美術館	学習会・指導案検討	東中・北中の授業実践報告を行った	15:00～
10月2日(火)	南中	授業研究会	南中；1名の研究授業参観と授業研究会を実施し、全国造形教育研究大会のプレ授業とした。	14:30～
10月30日(木) 全国造形教育連盟研究大会山梨大会 公開授業(山梨大学附属中学校)				
11月4日(火)	南中	・県教研の報告 ・全国・関ブロの反省と報告会を行い、今年度の活動を振り返った		15:00～
(12月2日)	美術館	図工・美術作品展審査及び展示準備		15:00～
1月27日(火)	美術館	実技講習会「色鉛筆によるの実技講習会」 ・次年度への方向性確認を経て引き継ぎ完了		15:30～

#### IV. 研究の成果と課題

身近なものを美術的な視点により鑑賞し、記録を積み重ねる取り組みの他に、もう一つの取り組みとして、美術教育で身に付けたい「4つの力」を、毎回の授業で提示することを行った。生徒が本時の授業の目標や活動重点を意識することができるものである。関心意欲・発想構想・技能・鑑賞の4つの力を、生徒にわかりやすい表記で提示した。関心意欲は「ワクワクしながら取り組もう」、発想構想は「思いつこう・思いをめぐらそう」、技能は「自分なりに工夫しよう」、鑑賞は「見つけよう・感じてみよう・味わおう」などである。本時の目標に合わせて、身に付けたい4つの力のうち、一つをポイントにあげる。そして、さらに、細かい目標やポイントを板書していく。この取り組みは、山梨県の小中学校全ての図画工作・美術の授業で行われた。義務教育の9年間を通して身につけたい4つの力なのである。これは、決して評価の四観点としてとらえない。各題材による学習が何を意図して、どのような生徒の力を育成したいのかを教師自身が再認識するきっかけにもなった。

今年度の研究は、普段の県教研のレポートと違い、全国の美術教師に提案されるものであり、甲府の提案というよりは山梨の提案という大役のため、題材の構想から指導案検討まで、多くの協力者の力を借りて研究を進めることができた。山梨大学の准教授をはじめ、高校や幼稚園などの他校種の教師が様々な視点や立場から意見を發表し合い、今までの甲府の教師集団では超えることのできなかつた指導力の向上につながったと思う。特に、身近なものを美術的な視点で見る取り組みは大きな成果を上げることができた。とかく授業の在り方ばかりに目が向いてしまって、それ以外の日常生活における美術活動に意識が薄かつたことを反省している。授業で学んださまざま力を普段の生活の中で活用できてこそ、将来必要な教科であると実感できる。また、その積み重ねが授業での制作意欲や新たな発想につながっていく。この相乗効果が、今年度の研究の一番の収穫と思う。

公開授業では、小集団による話し合い活動も取り入れた。鑑賞発表会ではなく、中間発表を小集団で行うことで、他者の意見や発想に触れながら自身の表現を振り返り、発想や表現の幅を広げる取り組みである。実践校の南中は、小集団による学習活動を数年取り組んでいる成果もあり、効果的であった。しかし、仲間との話し合いに不慣れな学校では、学級での小集団作りや話し合いの手順から指導していかないと成果が期待できないという反省も出た。

来年度は、中学校部会が県教研のレポート発表なので、今年度の研究をさらに深めた実践発表ができるように、さまざまな取り組みを継続していきたい。